

令和7年

火災・救急活動の概要

【確定版】

高槻市消防本部

1 火災

(1) 火災件数と出火率

◎火災は9件の減少

令和7年中に高槻市内で発生した火災は58件で、前年の67件と比べ9件の減少となった。
出火率（人口1万人当たりの出火件数）は1.7で、全国平均（令和6年中）3.0と比べ1.3ポイント低い。

(2) 火災種別

◎建物火災が70.7%

令和7年中の火災件数のうち建物火災が41件で、全火災の70.7%を占めている。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

建物火災	41件 (70.7%)
車両火災	6件 (10.3%)
その他の火災	11件 (19.0%)

(3) 焼損面積

◎焼損床面積及び焼損表面積は増加

建物火災は41件で前年の40件から1件増加し、焼損床面積は369平方メートルで、前年の144平方メートルに比べ増加となった。

焼損表面積は129平方メートルで、前年の15平方メートルに比べ増加している。

(4) 損害額

◎損害額は増加

令和7年中の損害額は27,266千円で、前年の20,888千円から比較すると6,378千円の増加となった。

1件当たりの損害額は470千円で、前年の312千円より158千円の増加である。

※ 損害額の整数第3位を四捨五入

(5) 火災による死傷者

◎死者は2人

令和7年中の火災による死者は2人（前年1人）で、負傷者は8人（前年6人）であった。

また、負傷者8人のうち、重症者は1人（前年1人）、中等症者が2人（前年2人）、軽症者が5人（前年3人）、30日死者が0人（前年0人）である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

◎令和7年は「放火・放火の疑い」「こんろ」が1位に

ア 令和7年中の全火災（58件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

放火（疑い2件を含む）	7件 (12.1%)
こんろ	7件 (12.1%)
電気機器	4件 (6.9%)
灯火	3件 (5.2%)
たばこ	2件 (3.4%)
配線器具	2件 (3.4%)
火入れ	2件 (3.4%)
かまど	1件 (1.7%)
排気管	1件 (1.7%)
電灯・電話等の配線	1件 (1.7%)

内燃機関	1件 (1.7%)
たき火	1件 (1.7%)
溶接機・切断機	1件 (1.7%)
その他	13件 (22.4%)
不明	12件 (20.7%)

イ 建物火災 (41件) を原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

こんろ	7件 (17.1%)
電気機器	3件 (7.3%)
灯火	3件 (7.3%)
たばこ	2件 (4.9%)
配線器具	2件 (4.9%)
放火 (疑い1件)	2件 (4.9%)
かまど	1件 (2.4%)
排気管	1件 (2.4%)
電灯・電話等の配線	1件 (2.4%)
たき火	1件 (2.4%)
溶接機・切断機	1件 (2.4%)
その他	7件 (17.1%)
不明	10件 (24.4%)

(7) まとめ

令和7年中の火災は、58件で前年の67件に比べ9件減少しているが、従前に引き続き地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

火災種別でみると、建物火災が41件で前年より1件増加しており、焼損床面積及び焼損表面積並びに損害額も前年より増加している。

火災による死者は2人で、前年より1人増加している。また、負傷者は8人で、前年より2人増加している。

出火原因は、「放火 (疑いを含む)」及び「こんろ」が7件で1位、「電気機器」が4件で3位と続いている。「放火 (疑いを含む)」は、前年の14件より7件減少しているが、消防、警察、自治会、自主防災組織、事業所等が取り組んでいる「放火されにくい地域環境作り」を継続し、放火撲滅に向けた積極的な対策をより一層推進していかなければならない。

令和7年火災概要（対前年比）

区 分	単位	令和7年	令和6年	増減 (C)	増減率 (%)		
		(A)	(B)	(A) - (B)	(C) / (B) × 100		
出火件数		58	67	△ 9	△13.4%		
建物火災	件	41	40	1	2.5%		
林野火災		0	0	0	—		
車両火災		6	7	△ 1	△14.3%		
その他の火災		11	20	△ 9	△45.0%		
焼損棟数			46	40	6	15.0%	
全 焼	棟	3	1	2	200.0%		
半 焼		0	1	△ 1	△100.0%		
部分焼		10	7	3	42.9%		
ぼ や		33	31	2	6.5%		
焼損面積		建	床面積	m ²	369	144	225
	物	表面積	m ²	129	15	114	760.0%
		林 野	a	0	0	0	—
死 者	人	2	1	1	100.0%		
負傷者(30日死者含む)	人	8	6	2	33.3%		
り災世帯		38	26	12	46.2%		
全 損	世帯	5	1	4	400.0%		
半 損		0	2	△ 2	△100.0%		
小 損		33	23	10	43.5%		
り災人員	人	80	59	21	35.6%		
損害額		27,266	20,888	6,378	30.5%		
建物(収容物含む)	千円	22,677	18,105	4,572	25.3%		
林野		0	0	0	—		
車両		3,246	2,695	551	20.4%		
その他(爆発含む)		1,343	88	1,255	1426.1%		
出火率		件	1.7	1.9	△ 0.2	△10.5%	
年	令和7年			令和6年			
主な出火原因	1	放火 (疑いを含む)	7件	1	放火 (疑いを含む)	14件	
	1	こんろ	7件	2	こんろ	7件	
	3	電気機器	4件	2	配線器具	7件	
	4	灯火	3件	4	たばこ	5件	
	5	たばこ	2件	5	電灯・電話等の配線	4件	
	5	配線器具	2件				
	5	火入れ	2件				

過去5年間の火災状況

区分別		年別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
火災件数			55	70	58	67	58
内 訳	建 物		25	42	37	40	41
	林 野		1	0	0	0	0
	車 両		8	9	9	7	6
	その他		21	19	12	20	11
	爆発 (上記を含む)		0	1	0	0	0
焼損棟数 (棟)			33	62	47	40	46
内 訳	全 焼		2	8	3	1	3
	半 焼		1	3	2	1	0
	部分焼		5	17	10	7	10
	ぼ や		25	34	32	31	33
焼損面積	建 物	床面積 (㎡)	452	1,143	853	144	369
		表面積 (㎡)	59	246	185	15	129
	林 野 (a)	7	0	0	0	0	
り災世帯 (世帯)			35	62	50	26	38
内 訳	全 損		3	10	17	1	5
	半 損		0	2	7	2	0
	小 損		32	50	26	23	33
り災人員 (人)			77	137	81	59	80
損 害 額 (千円)			41,673	141,256	58,996	20,888	27,266
内 訳	建 物(収容物含む)		39,860	133,096	51,042	18,105	22,677
	林 野		0	0	0	0	0
	車 両		459	7,749	1,559	2,695	3,246
	その他 (爆発含む)		1,354	411	6,395	88	1,343
死 者 (人)			2	1	4	1	2
負 傷 者 (人)			5	14	8	6	8
30日死者 (人)			0	0	0	0	0
覚 知 別 件 数			55	70	58	67	58
内 訳	火災報知専用電話 (119)		25	41	31	29	32
	加 入 電 話		0	1	4	2	2
	警 察 電 話		7	1	1	3	1
	事 後 聞 知		20	26	19	33	23
	そ の 他		3	1	3	0	0

2 救 急

(1) 救急出動件数

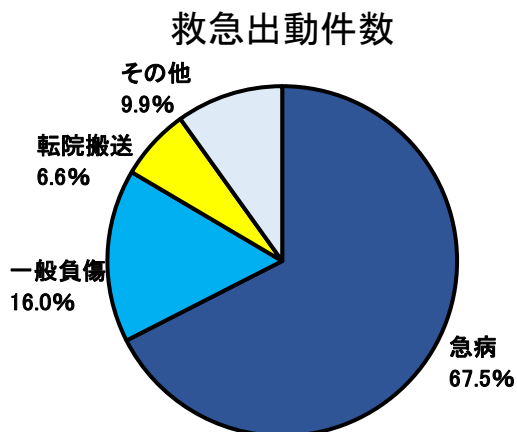
◎出動件数は減少

令和7年中の救急出動件数は24,668件で前年25,450件に比べ782件(3.1%)減少した。

また、1日平均にすると約68件、約21分に1回の割合で出動したことになる。

出動件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で16,649件(67.5%)、第2位が一般負傷3,946件(16.0%)、第3位が転院搬送1,631件(6.6%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出動件数は446件であった。



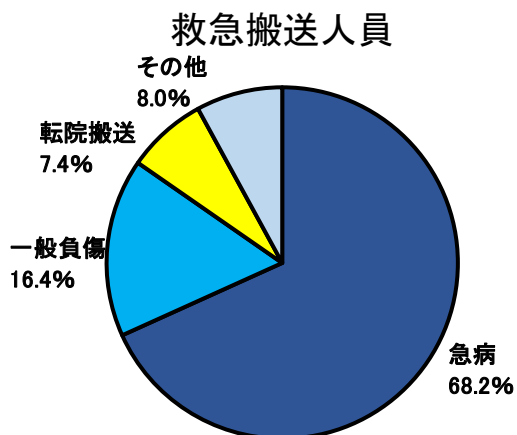
(2) 救急搬送人員

◎搬送人員は減少

令和7年中の搬送人員は22,025人で、前年22,627人に比べ602人(2.7%)減少した。

また、1日平均約60人、市民の約15人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

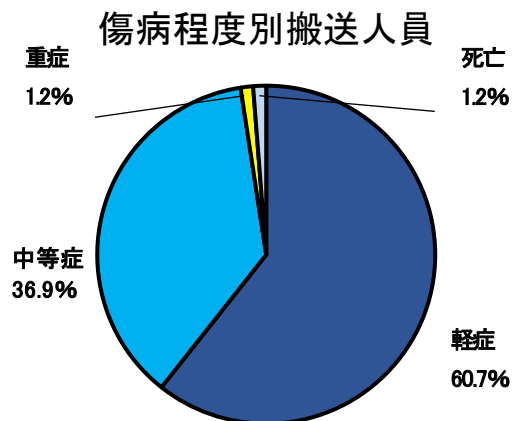
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で15,031人(68.2%)、第2位が一般負傷で3,614人(16.4%)、第3位が転院搬送で1,626人(7.4%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎軽症傷病者は13,357人

令和7年中の搬送人員22,025人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が13,357人(60.7%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が死亡、重症又は軽症以外のもの)が8,133人(36.9%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が261人(1.2%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が274人(1.2%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

令和7年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出動件数及び搬送人員ともに減少となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症傷病者が多く、全搬送人員の60.7%を占めており、全国平均46.8%(令和6年中の速報値)に比べ高い割合を示している。

今後の救急需要に対し全国平均に比べ高い割合を示している軽症傷病者への対応として、救急車の適正利用について市民等への働きかけを継続して行う必要がある。

救急概要

区分 事故種別		出動件数(件)			搬送人員(人)		
		7年	6年	増減	7年	6年	増減
合計		24,668	25,450	△ 782	22,025	22,627	△ 602
火災		36	24	12	7	3	4
自然災害		0	0	0	0	0	0
水難		9	7	2	0	0	0
交通		1,352	1,344	8	1,255	1,252	3
労働災害		174	168	6	157	155	2
運動競技		124	107	17	122	105	17
一般負傷		3,946	3,991	△ 45	3,614	3,633	△ 19
加害		84	81	3	69	67	2
自損行為		204	251	△ 47	144	181	△ 37
急病		16,649	17,268	△ 619	15,031	15,462	△ 431
その他	転院搬送	1,631	1,776	△ 145	1,626	1,769	△ 143
	医師搬送	264	219	45	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0	0	0	0
	その他	195	214	△ 19	0	0	0

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	12	25	11	0	0	185	0	162	395
活動件数(件)	12	10	8	0	0	172	0	70	272
救助人員(人)	2	11	6	0	0	173	0	28	220

4 その他

(1) 警戒・支援出動等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出動	90件	火災危険のあるもの(危険物・ガス漏洩等)
誤虚報出動	57件	火災出動したが結果誤虚報であったもの
支援出動	1,212件	救急等の支援活動
その他出動	511件	上記以外(怪煙調査等)
合計	1,870件	

(2) 応援出動

応援先	件数	応援出動の内容
島本町	38件	救急出動37件・その他出動1件(高速道路含む)
茨木市	15件	火災出動2件・救急出動11件・その他出動2件(高速道路含む)
摂津市	8件	火災出動3件・救急出動5件
寝屋川市	2件	その他出動2件
枚方市	1件	その他出動1件
大山崎町	11件	救急出動9件・その他出動2件(高速道路含む)
合計	75件	

(3) その他の災害出動

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出動	1件	気象に係る災害対応

※ 全ての表中の△印は減少もしくは負数を表す